

## 1. 学校規模

学校教育法施行規則による適正規模であるとされる学校規模は、1校あたり、12～18学級（普通学級数）とされています。

令和2年度における長瀬町の小学校2校の総学級数は13学級となっており、すべてが、小規模校となっているのが現状です。

令和3年度より、35人学級が導入され、長瀬第一小学校は人口推計によると10年後の令和12年度に長瀬第二小学校は4学年が複式学級になると予想され学級数は4学級と予想されます。

### 小学校

学校規模の分類	小規模校	適正規模校
総学級数	6～11学級	12～18学級
現状 2校で13学級	2校 長瀬第一小学校（7） 長瀬第二小学校（6）	0校

### 中学校

学校規模の分類	小規模校	適正規模校
総学級数	3～11学級	12～18学級
現状 1校で6学級	1校 長瀬中学校（6）	0校

来年度以降の学級数推計は別紙のとおりです。

長瀬第一小学校では、令和3年度以降、8学級の普通学級が設置される予定です。また、長瀬中学校ではしばらくの間、現在と同じ6学級の普通学級が設置される予定です。小中一貫校となる場合、小・中学校の普通学級数を合わせると、最低でも14学級分の普通学級の確保や小学校・中学校でそれぞれ使用する備品、特別教室などを整備する必要があります。

## 2. 学校規模に起因するメリットとデメリット

小規模校には学校規模に起因するメリットとデメリット、2つの側面があります。これらをよく比較し、学校のあり方を検討していく必要があります。現在、デメリットと感じていないことであっても、今後状況が変わりデメリットになってしまう可能性があることを念頭に、子どもたちの教育環境を考えていただきたいと思います。

	メリット	デメリット
学習面	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童・生徒の一人ひとりの性格や学習状況等が把握でき、個に応じたきめ細かな指導がしやすい。</li> <li>・学校行事や部活動等において、児童・生徒一人ひとりの個別の活動機会を設定しやすい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集団の中で、多様な考え方に触れる機会や学びあいの機会、切磋琢磨する機会が少ない。</li> <li>・1学年1学級の場合、ともに努力してよりよい集団を目指す、学級間の相互啓発がなされにくい。</li> <li>・集団でのスポーツ競技（野球・サッカー・ドッジボール等）が十分できない。</li> </ul>
生活面	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童・生徒相互の人間関係が深まりやすい。</li> <li>・上級生が下級生の面倒を良く見るなど、学年を超えた仲間意識が強くなる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラス替えが無いことから、人間関係や相互評価などが固定化しやすい。</li> <li>・切磋琢磨する機会が少なく、子供の競争心や向上心、社会性を育てにくい。</li> <li>・集団内の男女比に極端な偏りが生じやすくなる可能性がある。</li> </ul>
学校運営面	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全教職員間の意思疎通が図りやすく、相互の連携が密になりやすい。</li> <li>・保護者や地域社会との連携が図りやすい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員一人に複数の校務分掌が集中しやすい。</li> <li>・教員の出張、研修等の調整が難しくなりやすい。</li> <li>・教員の力量・向上が培いにくい。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域からの支援など、地元との関わりが密になる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PTA活動等における保護者一人あたりの負担が大きくなりやすい。</li> </ul>

### 3. 複式学級について

長瀬第二小学校は令和3年度から複式学級（2つ以上の学年で構成されている学級）を編成する予定です。長瀬町としましては、学習指導員を複式学級に配置し、二人体制で指導できるよう、予算要求をしています。

しかしながら、現状では教員数の不足により、学習指導員として配置できる人材がいない状況です。

この状況が、子どもたちにとって望ましい教育環境なのか、それとも改善が必要なのか、皆さまと一緒に考えていきたいと思えます。

#### 【複式学級とは】

複式学級とは2つ以上の学年で構成される学級のことです。異なる学年が同じ教室で授業を受けるため、一方の学年が先生から直接指導を受けている間、もう一方の学年は課題学習することになります。

#### 【複式学級の特徴】

- ・児童は、先生の直接的な指導を受ける時間が不足し、自学自習の特別な訓練が必要となる。
- ・先生は、間接指導充実のための指導計画の作成や指導方法の研究と経験が必要となる。
- ・行動が消極的になることや、学習意欲が低調になる傾向がみられることがある。
- ・学級の中で上学年や下学年を経験することにより、上学年の児童はリーダーとしての、下学年の児童はフォロワーとしての自覚を持つようになる。一方で、上学年の児童の負担が過重になることや、下学年の児童が上学年の児童に対して依頼心を持ちやすくなり、リーダーシップを発揮する機会が減少することがある。

## 【児童生徒にとってのより良い教育環境について】

諮問事項をふまえたグループワーク

### ○諮問事項

「長瀬町における児童生徒数の推移を踏まえ、長瀬町立小中学校において、将来にわたりより良い教育環境を維持するため、児童生徒にとってどのような教育環境が望ましいのかを総合的に検討し、将来を展望した学校教育のあり方について諮問する」